

教科目標

救急救命士科

1. 養成目的

救急現場または災害現場において冷静な判断と処置ができる知識・技術を持ち、人の「苦しみ」や「痛み」、「不安」や「悲しみ」を理解し、『安心』を与えることのできる病院前医療のプロ（救急救命士）を養成する。

2. 教育目標

1年次からの対策講座で、国家試験および公務員（消防）採用試験に合格する実力を身に付ける。
現場実習・連携教育ならびに地域との繋がりを通じた専門授業で、現場力と問題解決力を身に付ける。

3. カリキュラム

教育内容		科目	総時間数 (総単位数)
モチベーション プログラム	基礎分野	導入教育 / 学修会 英会話・医学英語 / 情報科学 / 生命・医学倫理 / コミュニケーションスキルⅠⅡ	165 (11)
プロミッション プログラム	専門基礎分野	解剖学・生理学 / 病理学・微生物学 / 生化学 / 薬理学 / 健康と社会保障	270 (18)
プロフェッショナル プログラム	専門分野	医学概論ⅠⅡ / 検査・感染/放射線医学 / 観察 / 処置論 / 救急症候・病態生理学Ⅰ～Ⅳ / 疾病救急医学ⅠⅡ / 外傷総論 / 外傷各論 / 環境障害・中毒学 / シミュレーション実習ⅠⅡⅢ / 救急用自動車同乗実習 / 臨床実習ⅠⅡ /	1665 (61)
	総合講座	一般知能・知識 / 総合基礎ⅠⅡ / 総合救急医療ⅠⅡ	1080 (72)
合計			3180 (162)

4. 学年（学期）目標

学年	到達目標
1年 (前期)	救急救命士に求められる人間性を理解するとともに、隊・チームを意識して行動できるようになる。
1年 (後期)	救急救命士に求められる人間性を理解するとともに、救急救命処置に関わる基礎的知識・技術を修得する。
2年 (前期)	救急救命士として必要な専門的知識を身に付けるとともに、救急用自動車同乗実習において現場で求められる知識・技術・態度を確認し、自身の到達目標を再設定できる。
2年 (後期)	救急救命士として必要な専門的知識を身に付けるとともに、臨床実習により実践的な技能・態度を修得する。
3年 (前期)	病院前医療（プレホスピタルケア）に関わる即戦力人材となるため、公務員試験に合格する。
3年 (後期)	病院前医療（プレホスピタルケア）に関わる即戦力人材となるため、国家試験に合格する。

5. 取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
救急救命士	必修	厚生労働省	養成施設卒業（卒業見込）、 国家試験受験
JPTECプロバイダー	必修	日本救急医学会	指定科目履修、試験受験
JPTECファーストレスポnder	必修	日本救急医学会	指定科目履修、試験受験
応急手当普及員	必修	東京消防庁	講習会
コミュニケーションスキルアップ検定	必修	滋慶教育科学研究所	筆記試験

6. 就職分野

就職分野	職種	核能力
消防機関	消防吏員	コミュニケーション能力 救急医学概論、疾病救急医学、外傷救急医学、 救急症候・病態生理学、環境障害・急性中毒学
防衛省	自衛官・防衛庁職員	
海上保安庁	海上保安官	
民間病院 (救急救命センター・救急外来)	救急救命士・看護助手	
民間救急患者搬送会社	救急救命士	